

2026年3月31日

## 2026年度 第3回Jリーグ理事会後会見発言録

2026年3月31日(火) 16:00～

Web ミーティングシステムにて実施

登壇: 理事・常務執行役員 青影 宜典

執行役員 樋口 順也

陪席: 執行役員 窪田 慎二

司会: 広報部長 江崎 康子

### 【司会(江崎広報部長)より説明】

本日開催いたしました2026年度 第3回理事会後の会見を開催いたします。

本日は先日3月24日に発表いたしました新たな体制で通常の理事会を開催いたしました。

### 《決議事項》

#### 1. J3クラブにおける監督指導者ライセンス基準について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/article/15912>

### 【司会(江崎広報部長)より説明】

昨年8月に発表した内容の続報です。指導者人材において、世界的に若手指導者がトップレベルで指導者の経験を積んでいる状況を踏まえ、日本においてもより挑戦しやすい機会をつくることを目指して、2026/27シーズンより「J3クラブにおける監督指導者ライセンス基準緩和」の運用が始まります。J3クラブでの指揮にあたって必要になる監督指導者ライセンスをJFA Pro ライセンスからJFA Aジェネラルライセンス以上に条件を緩和することが決まっております。

本日開催した理事会では、本件に付随し、J3クラブがJ2リーグに昇格した場合等の特例措置について決議いたしました。具体的には、JFA Aジェネラルライセンスを保有し、J3クラブを指導した指導者がそのシーズンクラブをJ2リーグ昇格に導いた場合等に、次シーズンにJ2リーグで指導を行う場合に特例措置を設ける内容となります。

JFA Pro ライセンスを取得するためには、約1年間にわたるJFA指定の養成講習の受講をはじめ、いくつか取得要件が定められています。昇格に導いた優秀な指導者が次のJ2のステージで挑戦するにあたり、Proライセンスの取得を待つことによる機会損失を最小限とするために、J2に昇格した当該シーズンに限り、条件付きでAジェネラルライセンスのまま、J2クラブの監督を務めることが可能となります。

こちらのルールは、昇格した当該クラブの指導だけではなく、他のJ2クラブで指導する場合も同様

の特例措置が適用されます。具体的な適用条件につきましては、リリースの後半に記載していますのでご確認ください。

#### 【J2リーグ昇格の順位要件を満たした場合の特例措置】

①以下の条件をすべて満たした場合、翌シーズンに限り、AジェネラルライセンスのままJ2クラブの監督を務めることが可能です。

- J3リーグで年間2位以内またはJ2昇格プレーオフで優勝(いずれかに該当すること)
- J3リーグおよびJ2昇格プレーオフの試合数合計のうち、半分以上で監督を務めた
- 当該J3クラブにおいて、シーズン終了まで監督として登録されていた
- 翌シーズン中に、並行してJFA Pro ライセンスコーチ養成講習会を受講する

②上記①に基づき監督を務めることができるJ2クラブは、監督を務めた当該クラブに限らず、他のJ2クラブも含む。

#### 【樋口執行役員より補足説明】

昨年8月にJ3クラブにおいては JFA Aジェネラルライセンスでも監督を務めることが可能であると決議していました。

その後の継続議論における主な論点は、当該クラブをJ2に昇格させた場合にも、引き続き監督を務めることが可能かどうか、という点でした。それを可能とする、というところから付随し、他のJ2クラブでも監督を務めることを可能とするかどうか、ピッチ上での順位要件(競技成績)としてはJ2昇格要件を満たしながらも、他の要因によって昇格できなかった場合、その監督が他のJ2クラブで指揮を執ることは可能とするか、といった様々な観点について、Jリーグフットボール委員会およびJFAも含めて議論を重ねてきました。

結論としては、可能な限り広くできるようなルールにいたしました。背景として、JFA Aジェネラルライセンスとはいえ、J3クラブを昇格等に導く成果をあげたということは、それだけでも十分に優秀な監督の資質があることの一つの大きな証左であると考えています。

こうした監督が、他クラブも含めて指導の機会を得ることは、当該年度に Pro ライセンス養成講習を受講することを大前提としつつ、様々な優秀な監督が現れ、大きなチャンスにつながるのではないかという観点から、本決議に至りました。

#### 【質疑応答】

Q: J3クラブにおける監督指導者ライセンスについては、レイラック滋賀FCの件を受けて検討し始めたという解釈で合っていますか。

**A: 樋口執行役員**

特定のJクラブの事情を契機としたものではなく、指導者環境に対する施策として従来より検討がなされてきたものです。

Q: レイラック滋賀FCの角田誠前監督が、今年の明治安田J2・J3百年構想リーグで指揮をとれなかったという事例がありますが。

**A: 樋口執行役員**

新制度は 2026/27 シーズンから適用するものとして決議し、周知してきております。現在(2026 特別シーズン)までは、J3においても Pro ライセンスは従来通り必要です。

**《報告事項》**

1. フットボール委員会 委員選任について

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/article/15914>

**[司会(江崎広報部長)より説明]**

Jリーグは、Jリーグ規約および専門委員会規程に基づき、フットボール委員会の委員を選任しました。フットボール委員会は 2022 年に創設し、今回の委員会は第 3 期となります。第 1 期および第 2 期のフットボール委員会では、Jリーグの諸制度の改革を中心に議論してきました。第 3 期となる今回は、よりピッチ上にフォーカスし「世界トップ水準のフットボール」の実現に向けた様々な施策を検討していく予定です。具体的な委員一覧につきましてはリリースをご確認ください。任期につきましては、2027 年 6 月 30 日までとなっています。

2. 2026 特別シーズンを担当するマッチクオリティアセッサーが決定

<https://aboutj.league.jp/corporate/pressrelease/article/15913>

Jリーグは、世界トップ水準を目指すJリーグの試合内容を選手OBが評価する、マッチクオリティアセッサー (MQA) 制度を 2026 特別シーズンに開始することを決定しました。今回、MQA を務める選手OBとして 24 名が選任されています。

2026 特別シーズンではトライアル運用として、MQA が選手の目線で試合の質を評価し、その内容を審判員との意見交換に活用していきます。2026/27 シーズンに向けてトライアル運用の検証を行い、役割や人数、対象試合を検討の上、実施することを予定しています。リリースには MQA となった 24 名の方を五十音順で記載しておりますのでご確認ください。

**[樋口執行役員から補足説明]**

1. フットボール委員会 委員選任について

フットボール委員会は野々村チェアマンの着任後に設置した委員会です。新しいフットボール委員については既に対外公開していますが、改めてメディアの皆様にご報告させていただきます。第 1 期で

はシーズン移行やJリーグ YBC ルヴァンカップの大会構造の変革など、様々な大会構造の改革に取り組みました。さらに第 2 期では、25 年ほど大きな変更のなかった選手契約制度の改革や、審判領域、育成制度、J3監督ライセンスなど、様々な制度に関する改革を進めてまいりました。大会構造、シーズン、制度が変わる中で、いよいよピッチ上のクオリティについて、どのように世界トップレベルを目指していくかというところに、よりフォーカスしていくのが今回の第 3 期目だと考えています。委員会のメンバーについては、日本サッカー協会の皆様や、内田篤人特任理事にも引き続き入っていただき、クラブからは藤田俊哉氏(ジュビロ磐田)、細貝萌氏(ザスパ群馬)など日本代表としてもトップレベルの活躍をされた方々に新たに入っていただきました。第 3 期は現在のJリーグのピッチ上のクオリティがどうなのか、それをどのように高めていけばよいかということによりフォーカスしていくことになると考えています。

## 2. マッチクオリティアセッサーについて

こちらまさに第 2 期のフットボール委員会でも様々な議論がありながら、テスト導入をしているという背景があります。1 月理事会後会見で審判改革をテーマとした話題の中で簡単にご紹介してはいますが、その際には、アセッサーを務めていただく方のお名前までは発表できていませんでしたので、今回改めて発表させていただきます。

現時点で明治安田J1百年構想リーグに 20 試合前後に MQA を派遣し、その試合の品質全体や審判のジャッジがどうだったか、適切なアドバンテージは取れていたか、アクチュアルプレーイングタイムを伸ばすための取り組みはしっかりできていたかなど、様々な観点で試合を見ていただいて、レポートを作っています。そのレポートをリーグに提出いただき、現地では試合終了後すぐに審判の皆様とコミュニケーションをとっていただいています。一つひとつの判定の正誤は振り返って映像で見ればわかる事ですが、実際に選手目線で、あの時の審判の振る舞いがどうだったか、笛の強弱、間の取り方、選手への声のかけ方など、選手であった目線で意見交換をしていただいています。導入後、審判の皆様にもこの取り組みに対するアンケートを取らせていただいています。非常に参考になったというご意見を多くいただいています。普段競技規則で学んでいるものからは得られない、選手としての感覚、テキストで書かれていない部分でこういった情報があるのとないのとは違うということを、非常に大きく受け止めていただいています。今後Jリーグのピッチ上のクオリティを高めていくうえで、レフェリングは非常に大きな要素になり、本制度の導入を通じより高めていけると受け止めています。マッチクオリティアセッサーの一部の方々には、プロフェッショナルレフェリーのトレーニングにも一緒に入らせていただいてディスカッションしたり、明治安田J百年構想リーグのベストイレブンなどの表彰選考などにも加わっていただく予定です。より選手目線に立ったベストイレブンの選定なども行っていく予定です。

### 3. ACL2025/26 サポートプロジェクトについて

#### 【樋口執行役員より説明】

「アジアで勝ち、世界で戦うJリーグ」を中長期で目指す中、ACL出場クラブにはJリーグ 60 クラブを代表して戦っていただいています。そこに対して、毎年JFA・Jリーグと連携し共同で様々なサポートを実施しています。今回は改めてサポート内容の全体像と、より支援を高めるべく一部変更した内容を本日理事会で決議をしていますのでご紹介いたします。

#### ① 渡航費の支援【Jリーグ】

ACLE Finals チャーター機(往路)/5,000 万円(復路)

ACLE その他の試合 渡航費の 40%

ACL2 決勝 5,000 万円(往復)

ACL2 その他の試合 渡航費の 20~40%

まず渡航費の支援です。金額的に一番大きなものとなります。ACLエリート ファイナルズが 2、3 週間後に迫っていますが、そこに進出する 2 クラブに対してチャーター機の支援を行います。これは昨年も横浜F・マリノスと川崎フロンターレの 2 クラブに対して行っており、1機に搭乗していただきました。ただ、2 クラブが乗るには手狭であったり、広島も含めた 3 クラブが行くことを想定したときに、1機では賅えないこともあったことから、今回チャーター機を 2 機手配し、結果的に町田、神戸それぞれが 1 クラブ 1 機でチャーター機を活用していただきます。

復路に関しては、勝ち上がり状況に応じて、どのタイミングで帰国するかが見えないこともあり、基本的にはクラブに手配することをお願いしています。ご存知の通り、中東の昨今の情勢も受け、なかなか帰りの手配がしづらい状況や、手配をするにあたり費用が非常に高騰していることもあります。安心、安全に選手、スタッフの皆様に戻っていただくことも重要ですし、戻っていただいたすぐ後にはJリーグの試合が迫っていることもありますので、万全の体調で戻っていただくことも考慮し、これまでは復路の渡航費の 20%を支援していましたが、今回、一律1クラブ 5,000 万円の支援をすることを決定しました。

従来の 20%ですと、定期便で帰ってくるかチャーター機を借りるかにより、金額に幅が出てきますが、想定で 1,000 万円、2,000 万円程度となる支援額を、大きく 5,000 万円に増額し、この情勢の中でも安心、安全に帰ってくるための手はずを整えていただきたいという趣旨で、本日の理事会で決議いたしました。ACLエリートのその他の試合についてはアウェイの渡航費の 40%を支援としています。

ACL2についても決勝以外は渡航費の 20~40%の支援をしている現状でした。ガンバ大阪は、まだこれから準決勝で、決勝に出られるかどうかは分かりませんが、決勝に進出した場合、東アジアと西アジアで 1 年ごとに交互開催のため、今年は西アジアで 1 試合制の開催になります。決勝の会場がどこになるかは 4 月 22 日に決定し、決勝が 5 月 16 日に開催されますので、決勝の約 1 ヶ

月前にならないと、どこで開催されるか分からない状況です。こちらの決勝への渡航費の支援ももともとは 20%の支援だったのですが、往路はチャーターがないこともあり、往復で合計 5,000 万円の支援をすることを本日の理事会で話をしています。予算上の措置の関係から来月、4 月 16 日の社員総会での決議が必要となりますが、本日の理事会において方針は決定している状況です。

② 勝利給【JFA】

各ステージ進出ごとにクラブに支給

③ ACLサポート配分金【Jリーグ】

1,250 万円/1 クラブ

そのほか、各ステージに進出することにJFAからの勝利給があります。また、ACLサポート配分金があり、こちらはJリーグから 5,000 万円という予算を出場クラブの状況に応じて按分して配分しています。Jリーグとしては、前年の競技成績が高いクラブに対しては理念強化配分金を、億単位の金額で提供しています。そういった背景もあり、ACLに特化した配分金は 5,000 万円を 4 クラブで割るものになりますが、トータルとしては億単位のサポートをさせていただいている認識です。

④ ホーム試合のプロモーション支援【Jリーグ】

ACLE:最大 1,500 万円/1 クラブ、ACL2:最大 1,800 万円/1 クラブ

そのほか、ACLを勝っていくためにはホームで多くのお客様にご来場いただくということも非常に大事な観点と考え、ACLEエリートと、ACL2でホームの開催回数が違うので、最大金額が違いますが、ホーム試合 1 試合に 300 万円程度、プロモーションに活用できるお金を各クラブに支援しています。

⑤ その他のサポート【JFA・Jリーグ】

人的サポート、各種プロモーションの支援、分析のサポート(各種スタッツ提供、選手・審判データ、映像編集等)

そのほかにも人的サポートとして、ACLのホーム開催時に 1 クラブ一人ずつ必要なLGC(ローカルジェネラルコーディネーター)およびメディア対応を担当するLMO(ローカルメディアオフィサー)をJリーグ、JFAから 4 名ずつ派遣しています。そのほかAFCとの様々な交渉をJFA、Jリーグで行ったり、写真や映像提供も含めた様々なプロモーションの支援、さらに分析のサポートも昨年強化し、今シーズンは選手や審判のデータも提供するという新たな取り組みも含め、クラブを支援させていただいています。

**【質疑応答】**

**Q： 来月の社員総会での決議になるのは、全体なのか、一部だとどの部分なのか、その点を確認させてください。**

**A： 樋口執行役員**

**ACL2の決勝に進出した場合の 5,000 万円の支援のみが社員総会での決議事項となりました。Jリーグの予算上の決済権限に基づくものです。ACLエリートが 4 月に開催予定のため、先に決議する必要があった関係でこのような形になっています。**